



■■キリストの再臨に備える■■

LVJCC 牧師: 鶴田健次

新年明けましておめでとうございます。“一年の計は元旦にあり”と言いますが、皆さんは、どんな思いで新しい年を迎えられたでしょうか。人は常に何かを期待し、何かを待ちながら生きています。そして、その期待するもの、待ち望むものによって、その人の人生が決まると言えるかも知れません。

では、今を生きる私たちクリスチャンが一番に期待し、一番に待ち望むべきものは何でしょう。それはキリストの再臨です。なぜなら、キリストの再臨があるとき、私たちに栄光の体が与えられ、私たちの救いが完成するからです。ですから、このキリストの再臨がもたらす恵みは、私たちの地上の生涯における栄光のゴールです。

そこで、私たちラスベガス教会は、『キリストの再臨に備える』という言葉で今年一年の教会標語として掲げ、キリストの再臨に備える歩みを教会を挙げてしていきたいと思ひます。

① キリストは必ず再臨される

初代教会の時代から、古今東西クリスチャンたちは、祈りながらキリストの再臨を待ち望んできました。クリスチャンがキリストの再臨を信じているのは、それが聖書に預言されているからです。キリストの再臨については、旧約聖書には 1500 の預言が、また新約聖書にも、全体の 25 分の 1 に当たる、319 節に渡って記録されています。

キリストの再臨は二段構えでやってきます。まず最初は「空中再臨」です。主が教会(クリスチャン)を空中に迎えに来られるのです。まずキリストにあって死んだ者がよみがえり、天に携え挙げられます。これを携挙と言ひます。その直後、生きている信者が栄光の体に変えられ、携挙されます。次に、「地上再臨」があります。主イエスが地上に再臨される日です。キリストは間もなく来られます。

② 主の再臨の時は誰にも分からない

いつの時代にも、キリストはいつ再臨されるのかということが

世界中の大きな関心事でした。しかし、まず私たちがはつきりとさせておかなければならないことは、キリストの再臨がいつであるかは誰にも分からないということです。

確かに聖書には、この世の終わりやキリストの再臨の前兆として起こる出来事について、多くの事が書かれています。ですから、再臨が近いかどうかをある程度予測することはできます。しかし、だからと言って、それが何年何月であるとは誰にも分かりません。なぜなら、それは分からないほうがいいからです。再臨の日は「ノアの日」のように、人々が、ただ毎日を刹那的に食べたり、飲んだり、楽しんで生活している時に、突然来るのです。

では、なぜキリストの再臨の時は誰にも分からないように定められたのでしょうか。神の権威によってそうされたからには、それが私達にとって最善なのです。では知られない事の意味は何でしょう。まず第一の意味は、信仰の真価が問われるためです。いつ来るか分からない事によって、キリストが来られた時に私たちの信仰の真価が問われるのです。また第二の意味は、私たちが目を覚ましていくためです。主の再臨が、いつか分からない事が私たちの霊的な目を覚まさせてくれるのです。

③ キリストの再臨に備える生き方

もし、あなたが求道中であるならば、あなたの求道の思いを明確にするべきです。真の神を信じ、従うという事は、あなたのどんな問題にも勝つて重要な問題です。ヘブル 4:7 にあるように、「きょう、もし御声を聞かざらば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない」のです。

もし、あなたがクリスチャンであるならば、目を覚まして心がける事は何でしょうか。私はまずクリスチャンの方にもご自分の救いの確信を確認することをお勧めします。次に、本当に救われた者として、霊的に目を覚ましていく事です。その秘訣はデポジションが生活の土台になっていることです。イエス様との交わりこそが主の再臨をお迎えする最も大事な備えの基礎なのです。その上で、聖霊の導きによって救霊の働きに励む者でありたいと思ひます。

DREAMS COME TRUE

- ✠ 教会堂の建設
- ✠ 敬老ホームの設立
- ✠ 幼稚園の設立

お祈りのリクエスト

- 日本の家族の救いのために
- 各スモールグループのオイコス伝道のために
- 入門者クラスのために (田中兄、亜津子姉、彩沙姉、ミミ姉、和江姉)
- 英語部の働きのために
- ユースミニストリー、サンデースクールのために
- 癒しの祈り: 恵理奈ちゃんの網膜芽細胞腫、植木ケン兄の糖尿病、神崎先生の目、倉田一徳さんの脳腫瘍、新井雅之兄の癌、中村裕二先生の直腸癌、藤永君江姉の癌、以津子姉、Kahoku さん、Simeon 兄の癌、山口スカイ君の心臓

Desert Wind では、ご意見・質問等何でも受け付けております。

lvjccdw@hotmail.co.jp

発行人: 鶴田健次

編集人: 松岡みどり



編集室 雑記

新年明けましておめでとうございます。今年もデザートウインドをよろしくお願ひ致します。

多くの方が感じていることですが、世界は年々悪化の一途をたどり、ますます終末予言の様相を呈して来ていることを感じます。そのため、主に救われ、永遠の命を与えられているキリスト者が担っている責任・福音宣教の使命を強く実感いたします。選ばれた者は、滅び行く命を救いの道へと導くことができる唯一の存在。主の大宣教命令は、今いる所から立ち上がってこそ、主の力を得、リバイバルを起こせることを思い、主に祈り求め、主の御力を得、勝利の道を歩みたいと願っています。

「御名を崇めさせ給え。御国を来たらせ給え。御心の天になるごとく地にもなさせ給え。」そう祈りつつ、主の御手にお委ねします。

苦しみに遭ったことは良い事

証し / 佐藤 敏子

私は離婚がきっかけで、神様に会うことができました。2007 年 9 月に正式に離婚致しましたが、そこに至るまでの約 10 ヶ月間は本当に様々な葛藤がありました。

離婚の原因は 7-8 年前に遡ります。私はカジノホストという仕事をしていて、勤務時間は一応 8 時間ですが、実際には 24 時間オンコールという状態です。残業も多く、個人の生活に関係なく会社やお客様から電話があります。結婚後 14 年間、そして今もその仕事をしています。前夫は、それが耐えられず、自分を世話してくれる人が欲しいと言ひ続けていました。私は忙しい時以外はできるだけ彼の希望に沿うよう努力しましたが、彼には伝わりませんでした。ただ結婚 13 年を過ぎた頃から、私は結婚の意味を考へるようになりました。別れるのは寂しいと、答えが出ないまま、淀んだ結婚生活を続けていました。

2007 年 2 月、つまらない事から口論となり、そこから離婚へと発展していきました。私たちには共通する所がなく、趣味も違えば物の考へ方も違い、離婚も当然の帰結だったかも知れません。しかし、その頃には気づいていませんでしたが、双方ともに自己中心であった事がクリスチャンになってから分かりました。例えどんなに違う二人でも、聖書が教える隣人愛があれば、相手を思いやる事ができたことでしょう。

さて離婚が決り、私が出を出る事になりましたが、色々な事情からすぐには越せない状態で、半年ほど同居を続けるを得ませんでした。その間、彼の行動は大胆になり、外泊、深夜の帰宅が続き、私は寝付けない夜が多くなりました。そんな状態の中で、早く家を出たいと思うようになり、8月に引越しました。その後、正式に離婚が成立し、彼の口からガールフレンドがいることを聞かされました。これは大きなショックで、彼が彼女の話をする間、私は自分を平静に保つのが大変でした。会話の最後に、私は「よかったわね。何かあったら私が看病に行かなければと思っていただけ、そういう人がいるなら心配ないわね。」と言うのがやっとなりました。その夜は文字通り一睡も出来ませんでした。私は生きる意欲を失い、ただ生きながらえているという状態で、彼に対する怒り、裏切られた悔しさ、自分の馬鹿さ加減、すべて考へる事が否定的で、自分ではどうしていいか分かりませんでした。

そんな中、ふと何度か伺っていた日本人教会の鶴田先生の事を思い出しました。Kay さんから電話番号を聞き、電話をして、その2-3日後に会っていただく事が出来ました。先生は愚痴混じりの私の話を根気よく聞いて下さいました。私は話している間も感極まって嗚咽を漏らすことが何度もありました。先生は何日か私の話を聞く機会を設けて下さり、その後、聖書の入門クラスを受けてみませんかと言ひ誘って下さいました。そして入門クラスも終わりに近づいた頃、信仰告白へ導かれ、先生はクリスマスに洗礼を受ける事を薦めて下さいました。しかし先生の仰る事は砂漠に水が浸み込むように解りましたが、聖書の中に出てくる話でまだ信じられないところがありました。その事を先生に申し上げると先生は色々な角度から説明して下さいましたが、それでも納得できませんでした。その時の私には何かするものが必要で、神以外にすがれるものはない事も頭では分っていました。頑固な私に先生も困っていたらと思います。その時、ふと数日前に見た日本のテレビで、キリスト教とは関係のない番組でキリストの奇跡と思われる内容を放送していたのを思い出しました。世の中には私の狭い常識では理解できない事があるという考へに至り、聖書はまさに私の常識を超えた所にあるのだと思ひました。先生はその事を百も承知でいらしたでしょうに、私がそこに辿り着くまで、忍耐強く待って下さいました。そして、2007 年 12 月 23 日のクリスマス礼拝で私は洗礼を受け、晴れて神の子とされる光栄に浴しました。

先生のメッセージはどれを取ってもいつも多くの学びを与えられますが、特に最近のメッセージの中にお話したお話は私にとっては感動的でした。それはある人の話として紹介されていましたが、その人は自分が望んだ試練はひとつもなかったが、感謝しなかった試練はひとつもなかったというものでした。確かに私にとって離婚は人生の最大の試練であり、決して望んだものではありませんでした。しかし、離婚後 3 年が経ち、この試練がなければ、神はもちろん神の家族との出会いもありませんでした。そして感謝な事に、神は私に前夫を赦す心を与えて下さいました。あるとき、前夫から“自分は私に対し、随分ひどい事をしたのに、そんな自分に何でそんなに親切にしてくれるのか分からない”と言われ、神の言われる通りに生きてきたと分かったと思ひました。

私にはまだまだ多くの課題がありますが、これからも神様により頼み、御心のままに生きていけるよう努力したいと思ひます。神に感謝。